

町民の声

日本一の町を目指して

松前町徳丸 弓立達夫

先般、北伊予土地改良区の研修で「道後平野の農業用水施設」の見学に向き、私たちが、面河とかけ離れた地（松前町）で面河の水を利用して、地域用水の確保の状況を学んだ。

度々遭遇してきた干ばつ対策として、先人達の努力で多目的利用の面河ダム（S42完成）を建設、ため池や隧道などを經由して利用できていること、高知県の理解や近隣水域の水没などの多くの犠牲の上に実現したことを知らされ、将来を見据えた政治の雄大さを痛感、有意義な見学会であった。

さて、将来の松前町の展望として今どんな取り組みに期待したいか考えてみた。

まず災害対策として、中国・四川大地震や岩手・宮城内陸地震に見るように自然災害の驚異は凄まじいものであった。

松前町では、山が無いので土砂崩れはないが、「災害は、忘れた頃にやってくる」、近年の異常気象等の予測し難い状況で、重信川の氾濫や松前海岸の高潮対策は本当に心配ないのか。

災害予防と事後対応の両面から緻密な防災対策が必要でないかと考える。

次に松前町の商業・工業・農業などのバランスのある発展をどう見いだしていくかも大切な課題であろう。

中四国最大級のスーパー「エミフルマサキ」は、町のシンボルとなり、これらに付随した周辺道路の混雑緩和対策も急いでいることだが、中でも「エミフルマサキ」オープン後の県道「松山・伊予線」の中川原橋付近での渋滞は、「どうにかしてくれ」と思っている人は、私ばかりではないはずである。

農業では、食料自給率の確保の他、安全・安心な食料の供給が大きく叫ばれ、消費者の国内産指向が進む中、国の施策は、意欲ある農業者や団体に傾斜した支援となってきた。

しかしながら、農業後継者の著しい減少傾向は、わが町でも歯止めがかからず、いずれこのままでは、農地の荒廃化が進むのは必至であり、松前町独特の営農支援等を通じ、安心して農業ができる体制づくりが必要と思う。

松前町は、「住みよい町・住みたい町」として、立地条件は群を抜く中、「新生松前ビジョン」を打ち出し、人口誘致対策や社会資本の整備計画等を通じ、日本一の町づくりに取り組んで頂きたいと願っている。

町議会を傍聴して

大西早苗

昨年十二月と今年三月の定例議会は、傍聴者が多く「町民の関心もさすが」と思っていたのですが、今回六月の傍聴席には十数人と寂しいかぎり。

ほとんど同じ顔ぶれ。私達町民の代表として選んだ人達

が、どのように町政に係わって下さっているのか、もっと関心を持ち見守って欲しいと思います。

新議員全員で勉強会を持ち、色々な方面からの情報や役場各課の仕組、仕事内容など、かなり意欲的に学ばれているようにお聞きしております。大変喜ばしい事と心より拍手。

わが町には、大きな目玉商品となるような観光資源はありませんが「義農の精神この町を守る」といった心を引き継ぐ町民として誇りを持ち、益々この町が発展するよう町民も一帯となり、町政に係わって行きたいと思えます。次回

はもつと多くの友を誘い傍聴に行こう。

町民の声の原稿をお寄せ下さい

町政や議会、本誌に対するご意見・ご要望などをどしどしお寄せ下さい。（500字程度）

宛先

松前町筒井 631
議会広報編集特別委員会 町民の声
FAX 985-4148
E-mail 500gikai@town.masaki.ehime.jp

住所・氏名・年齢を届けるだけでどなたでも自由にできます。

松前町議会は、本会議と各常任委員会の傍聴席を設け一般公開しています。傍聴の手続きは、議会事務局（庁舎5階）で住所・氏名・年齢を書くだけの簡単なものです。多くのおみなさんの傍聴をお待ちしています。

（今回は9月中～下旬の予定です。）

本会議委員会 傍聴のご案内